

ろうあ（ろう）の身で松本ろう学校を創り、 初代校長小岩井是非雄先生



こいわい ぜひお
小岩井是非雄先生
(1894年～1981年)

◇ろう学校創立について

日本最初のろう教育は京都の盲啞院の創設に始まった。二番目は東京聾啞学校（現・筑波大学附属聾学校）である。明治の終わり頃より大正のはじめ頃、全国のあちこちに私立や公立の盲啞学校としての創立が多かったようである。昭和になり、戦後義務教育実施により盲人部と聾啞部に分離し、今の特種学校となった。

長野県内では、ろう学校は現在二校であり、「長野ろう学校」と「松本ろう学校」である。長野ろう学校の創立までには、明治三十六年「私立長野盲啞学校」、大正十三年「長野市立長野盲啞学校」、昭和八年「長野県長野盲啞学校」と変遷されてきた。

松本ろう学校は、大正の頃から松本盲学校があったので、最初に盲啞学校でなく、

昭和三年「松本女子求道会附属聾啞教育所」が創立され、その後昭和七年「私立松本聾啞学院」に改称、学校として発足、昭和十年「私立松本聾啞学校」に改称、昭和二十三年県立移管のために「松本市立松本ろう学校」に、昭和二十五年県立校として「長野県松本ろう学校」となり、現在に至っている。校舎の場所は、有名な「国宝松本城」や重要文化財「旧開智学校」のある文化財が多いとても恵まれた環境の所に「松本ろう学校」が設置されてきた。校舎は「蟻ヶ崎校舎」「白板校舎」「旭町校舎」「美須々校舎」「現・寿校舎」と移り変わった。

官立東京聾啞学校（大正九年四月）

（現在・国立筑波大学附属聾学校）



◇小岩井是非雄先生の功績について

ろうあ者の学校長就任については、官立東京聾啞学校（現・国立筑波大学附属聾学校）卒業生として、わが国では一名おられ、日本最初のろうあ者の校長の北海道八雲ろう学校（現・室蘭ろう学校）の辻本繁先生と二番目に長野県松本ろう学校の小岩井是非雄先生であった。

小岩井先生は、明治二十七年松本市島立の農家に生まれた。明治四十四年東京聾啞学校を卒業後、私立岩手盲啞学校（教員）にて勤務された。

帰郷して家業の農業に従事したが、「県を中心の松本市にろう学校を創りたい」という夢を持って、再び東京聾啞学校師範部図画科で学び、教員免許状を取得された。



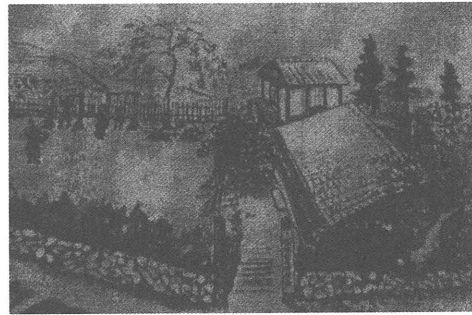
東京聾啞学校師範部図画科にて
絵画を学ぶ 小岩井先生（着物の人）



私立松本聾啞学院第1回卒業
(昭和10年3月28日)
前列右から2人目が小岩井先生

昭和三年十一月十日、小岩井先生と寺田五三子先生(始業者)の経営の松本女子求道会に附属聾啞教育所を創立し、本格的にスタートした。しかし、昭和七年他の経営に専念のため寺田先生が辞退され、小岩井先生が後継者となられ、「私立松本聾啞学院」の経営をし、その後「私立松本聾啞学校」を創設して、初代校長に就任された。小岩井先生は音のない世界に生きながら、私立をはじめ、市立を経て待望の県立ろう学校長となった。「松本ろう学校」を愛し、ろう教育のために積極的に尽力された。その多年にわたり、私財をなげうってろう教育の振興に努めた事などによって、昭和四

十三年名誉のある勲五等瑞宝章に輝いた。その他に、松本ろう学校同窓会(初代会長)や社団法人日本ろうあ協会長野支部会(部長)など、ろうあ界のために献身された。昭和五十六年十二月老衰のためご永眠され、正七位に叙せられた。



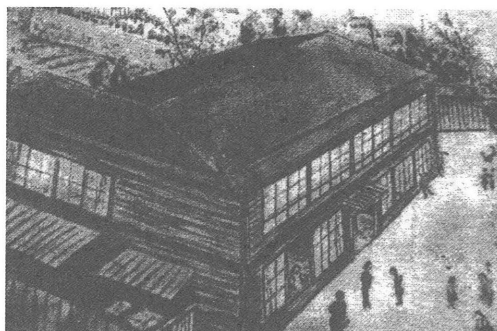
第1図 松本女子求道会附属聾啞教育所、
私立松本聾啞学院 蟻ヶ崎校舎
(昭和3年~11年) 小岩井先生筆

◇松本ろう学校の歴史について

昭和三年十一月十日、昭和天皇ご即位の記念事業として、松本市蟻ヶ崎において、小岩井先生は「聾啞教育所」を考えて、社会事業団松本女子求道会の始業者の寺田先生と共に「松本女子求道会附属聾啞教育所」を創設した。生徒は六名。校舎は、民家の建物であった。これが「蟻ヶ崎校舎」であ

る。(第1図)そして昭和七年、寺田先生が求道会の経営のため辞退され、後継者として小岩井先生は「私立松本聾啞学校」を創設し、自ら初代校長にいられた。段々、生徒が増えてきたため、松本市蟻ヶ崎から白板に移転した。この校舎は、松本盲学校や県立松本中学校寄宿舎として使用した建物であった。これが「白板校舎」である。(第2図)しかし、白板校舎の時代は経営が最も苦しい時代であった。特に昭和十九年文部省が、各種学校を整理する意向のため「松本市のろう学校を廃校するように」との命令があった。危機の時代であった。小岩井先生は学校経営の困難な時を迎えて、父兄会(現・PTA)や同窓会などの協力を得て、更に市立大坂ろうあ学校校長の高橋潔先生と同校教官の藤本敏文先生(全日本聾啞連盟長、東京聾啞学校同窓生)の援助を何回も頂き、ようやく「松本聾啞学校」を無事に存続する事ができた。その結果、文部省と長野県知事より小岩井先生に対して、ろう学校設置及び校長を認定する件が認可される運びとなった。

当時の職員は、東京聾啞学校師範部卒業生の山中福代先生と平林弘也先生、松本ろう学校卒業生の(助手として)甕信夫先生と長岡たけよ先生で、教員が全員ろうあ者だった時代もあった。

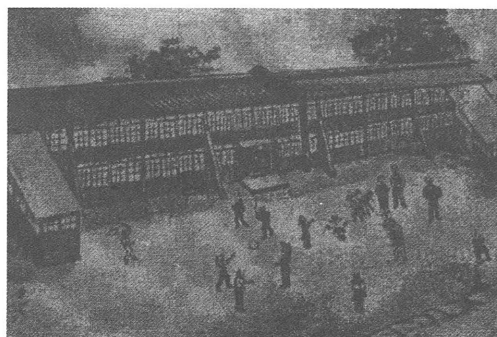


第2図 私立松本ろうあ学校 白板校舎
(昭和11年~26年) 小岩井先生筆

それから県立移管のために私立から市立となり二年間「松本市立松本ろう学校」として発展した。更に待望の県立移管ができ、校舎は松本市白板から旭町に移転した。蚕業試験場の建物だったが、学校らしく整備された校舎となった。これが「旭町校舎」である。(第3図)

昭和二十五年七月、県立移管として「長野県松本ろう学校」が開校され、小岩井先生は一ヶ月程校長に就任されたが、県教育委員会の教職員の人事移動により長野県長野ろう学校の教頭と教員三名を迎え、小岩井先生は校長職を免ぜられた。その後は講師として教員を続け、県が建設した新しい

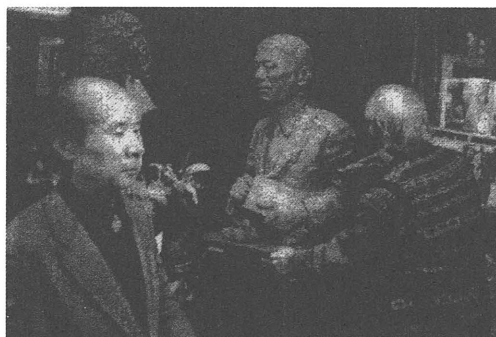
「美須々校舎」にて、昭和三十一年三月ろう学校を退職された。



第3図 県立松本ろう学校 旭町校舎
(昭和26年~28年) 小岩井先生筆

◇小岩井是非雄先生の銅像建立を祝って

去る平成十二年六月十七日(土)午後一時より長野県松本ろう学校にて同校同窓会創立六十周年記念事業として、待望の「初代校長小岩井是非雄先生」銅像建立除幕式・祝賀会が開催された。母校同窓生、筑波大学附属聾学校同窓生、児童生徒、旧・現職員、来賓などを含めて約二百名余参加した。雨が降っていたため、体育館において先ず除幕式の式典を行ない、発起人代表降籙久さん(同窓会長)よりあいさつがあ



胸像制作(彫刻家:洞澤今朝夫先生と校長先生のご遺族:小岩井淳平さん)

り、彫刻家の洞澤今朝夫先生と(株)奥原造園様に感謝状が贈呈された。その後、雨にもかかわらず銅像前へ移動して銅像台座に向かつて、小岩井校長先生のご遺族の小岩井淳平さん、学校長、元校長、元教諭の八名は、白い幕がかけられた銅像の前で児童生徒が校歌を斉唱した後、除幕して完成を祝った。

は、彫刻家の洞澤今朝夫先生（日展会友）に依頼し、右腕は手話「元氣！」「頑張る！」、左腕は教育者らしく本を持つ姿とした。素晴らしい胸像になった。また、石台座も松本ろう同窓生の宇梶正徳さん（奥原造園勤務）が設置、工事のご尽力を頂いた。

全国ろう学校の中には、ろう教員として吉川金造先生のブロンズレリーフ（愛知県豊橋聾学校）もあるが、初の胸像としての「小岩井是非雄先生銅像」であり、松本ろう学校と同窓生にとつては誠に誇りに思う限りである。



『小岩井是非雄先生』銅像

◇終わりに

「小岩井是非雄先生と松本ろう学校」の調査に当たっては、小岩井先生のご遺族をはじめ、母校の先輩方、松本ろう学校、筑波大学附属聾学校同窓会などにご協力を頂き、記録や資料を簡単にスライド映写にまとめ、当日参会者に見て頂いた。

この時、偉大な小岩井先生の追想集などを讀んだところ、「松本ろう学校の基礎」を創られたのは、音のない世界の小岩井先生にとつても、大きな生き甲斐であったのだという事をしみじみ思った。

皆様と共に、「小岩井校長先生」の素晴らしい生涯をご理解頂ければありがたい事である。また、小岩井先生の銅像建立ができたので、機会があったら松本ろう学校には非お越しくだされば幸いと思う。

（筑波大附属聾美術専攻科卒業 内田記）

【長野県松本ろう学校同窓会】

事務局：内田 博幸 FAX0263-72-9328

【長野県松本ろう学校】

長野県松本市寿豊丘大野田820

〒399-0021 FAX0263-85-1411

TEL0263-58-3094

